

令和5年度「学校図書館活用推進事業」実践報告

新潟市立木戸小学校

1 図書館教育の目標

- ・【読書センター】児童が読書の楽しさを味わいながら読む力を付け、幅広いジャンルの本に親しむための活動を工夫する。
- ・【学習・情報センター】児童がさまざまな資料を収集・選択・活用し、自らの課題を解決する力を育てる。
- ・環境を整美し、親しみやすい場にする。

2 学校や児童の実態(令和5年7月現在)

(1)読書センターとして

- 今年度より、朝読書を学年ごとに実施している。(低学年：毎日 3～6年：週1回程度)
- 読書週間や周年記念のイベント活動に意欲的に参加する児童が多い。
- △ 学年やクラスによって、学年別推薦図書を積極的に読んだり、うち読書に取り組んだりする児童に偏りがある。→ 読書の習慣が身に付いていない児童が多い。
- △ 貸出は図書の時間に行うことがほとんどで、休み時間の貸出数が少ない。
- △ 集中して読み聞かせを聞けない児童がいる。

(2)学習センター・情報センターとして

- 担任と司書が連携し、図書資料を用いた学習を活発に行っている。
- 図書館オリエンテーションでは、本の分類、ラベルの読み方や引用・出典の書き方などについて、学年の実態に合わせながら、教諭と司書と一緒に指導している。
- △ 調べ学習では、児童が図書よりもインターネットを好む傾向にあり、作文やポスターなどに考えをまとめる際、そのままコピーする姿も見られる。
→ 図書資料の良さを伝えたり引用の方法について指導したりすることが必要。
- 読書が苦手な児童でも、タブレット端末ではなく図書を使って調べ学習を進める姿が見られる。
→ インターネット上の膨大な情報から必要な項目を選び出すことが難しい児童にとっては、図書の方が調べ学習をしやすい。
- △ 図書資料は学級への貸出がほとんどで、図書館で必要な資料を選び出す活動はあまり行われていない。

3 取組の内容

学校や児童の実態を踏まえ、「読書センター」としての図書館利用を進めながら、「学習センター」「情報センター」としての機能をより一層高めるための実践を行った。その中でも、図書資料を活用すること、著作権に配慮することに重点を置いた。

(1)読書センターとして

①朝読書

各学年で時間を設定し、週1回以上実施できるように促した。読書週間には、全学年で毎日朝読書を行った。

②司書による 読み聞かせ・語り・ブックトーク(本の紹介)

図書の時間の前半15分程度で、学年のグレードに合った幅広いジャンルの本を紹介した。

③「この本読んだ？」学年別推薦図書を取組

カードを配付し、完読した児童には修了証を渡すことで、意欲的に本を読む姿が見られた。

④うち読書

うち読書カードを配付し、家での読書をすすめた。読書の習慣を身に付けさせるため、週末には図書の持ち帰りを促した。

⑤読書週間の取組：夏（7月）と冬（12月）

⑥図書委員会の取組

読書週間の時期に合わせて、児童朝会での演劇、本の紹介ポスターの制作、スタンプカードなどの取組を行った。図書館に来る児童の数が増加したり、イベントに積極的に参加する姿が見られたりした。

⑦周年記念イベント

木戸小学校創立150周年にちなみ、記念のイベントを複数実践した。

(2)学習センター・情報センターとして

①学校図書館年間活用計画の作成

「学年別単元・題材一覧表」をもとに、図書館を活用する単元・題材を取り上げ、学年ごとの活用計画を作成した。

②図書館オリエンテーション

図書資料を活用する力を身に付けさせるため、以下の内容について指導するオリエンテーションを、年2回程度、全学年で実施した。

【1・2年生】マナー、本の扱い方、絵本の配列・ラベル、貸出・返却の方法（1年生のみ）

【3年生】本の10分類（特に9類文学）、ラベルの見方 図鑑の使い方（目次・索引）

【4年生】本の10分類（特に4類自然科学）、百科事典の使い方

【高学年】年鑑の使い方、著作権、引用の方法、出典、奥付について

③著作権に関するパワーポイント資料の作成

6年生を対象として、著作権の指導で利用できるパワーポイント資料を作成した。著作権とは何か、資料を用いるときの引用の仕方や出典の書き方などについて指導する内容になっている。職員研修で内容や使い方を周知し、6年生の児童には、授業の中で担任が指導を行った。なお、この資料は、令和3年度に学校図書館支援センターが作成した資料を加工・編集したものである。

④中学校区での連携

中学校区の合同研修会において「図書館部会」を新設し、取組について話し合った。4校合同の取組として、以下の二つを行った。

- ・著作権や情報の取り扱い方に関するポスターの作成と掲示
- ・出典カードの作成と利用の促進

※ ポスターや出典カードの内容については、東新潟中学校の資料を参照。

⑤各学年の実践

活用計画に沿って、図書館を活用した実践を行った。（実践の内容については後述）

⑥資料提供

学習資料として、木戸小学校の蔵書から約1000冊を提供、また中央図書館から多数の本を借用した。

著作権

- ・文章や音楽、絵などの**作品を作った人（著作者）**がもつ権利のこと。
- ・適切に引用し、**出典を示す**場合を除いて、許可なくその作品を使ったり、変えたりしてはいけない。

引用と出典

- 調べた情報を用いるときに使しましょう。
- ・**引用**：本などに書かれていること（文章や絵）を自分の話や文章の中で使うこと。
- ・そのまま抜き出し、カギカッコでくって他と区別する
- ・出典を示す
- ・**出典**：調べるときに使った本や資料
- ・「著者名」「書名」「出版社」「発行年」を示す

4 図書館を活用した実践

(1)1年生 国語「じどう車ずかんをつくらう」

【図書館活用や図書館部との連携により付けた力】

乗り物図鑑を作るために適した本を選び、それぞれの乗り物の「しごと」にふさわしい「つくり」についての情報を読み取ったり書き抜いたりする力。

【指導計画】(全5時間)

	学習内容	図書館活用	図書館部との連携
1次	「じどう車ずかん」を作ることを知り、学習の見通しをもつ。	担任が乗り物の図鑑を借り、児童に見せる。	乗り物の図鑑や絵本などの資料の収集。
2次	本などを使って、紹介したい自動車の「しごと」とそれに合う「つくり」について調べ、「じどう車しょうかいカード」を書く。	・図書館の本から、紹介したい乗り物の本を探す。 ・選んだ本から、乗り物の「しごと」とそれに合う「つくり」についての情報を集める。	ブックトラックに自動車の本を集め、教室に貸し出す。
3次	「じどう車ずかん」を読み合い、感想を伝え合う。	完成した「じどう車ずかん」を教室に展示する。	

【指導の実際】



カードを書く時には、本の記述から「しごと」と「つくり」にあたる部分を探した。教材文の書き方に合う本を集めたため、自分の力で書けている児童が多かった。

自動車の本は、ブックトラックに集めて教室に貸し出してもらった。



【成果と課題】

- 事前に司書と打ち合わせをしたことで、教材文の書き方（しごととつくりに分かれている）に合った図書資料を購入したり収集したりすることができた。
- 本を教室に貸し出してもらったことで資料を探しやすくなった。同じ本が何冊もあったことで、一人一冊を確保できたこともよかった。
- △ 図書館で必要な資料を探す力を身に付けさせることができなかった。分類番号を見て探す時間を設けてもよかった。

(2)4年生 国語 「世界にほこる和紙」、「百科事典の使い方」 「伝統工芸のよさを伝えよう」

【図書館活用や図書館部との連携により付けたい力】

- ・総合百科事典「ポプラディア」のひき方（つめ、はしら、索引を見る）を理解し、情報を得る力。
- ・引用の仕方や出典の示し方を理解し、各自の成果物に明記する力。

【指導計画】（全16時間）

	学習内容	図書館活用	図書館部との連携
1次	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸について関心をもつ。 ・学習の計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司書が、伝統工芸に関する図書を教室に貸し出す。 	『都道府県別 伝統工芸大事典』（あかね書房）、「日本の伝統工芸のみりよく」シリーズ（ポプラ社）他を貸し出す。
2次	<ul style="list-style-type: none"> ・「世界にほこる和紙」を読み、まとまりごとに中心となる語句や文を考え、要約する。 ・百科事典の使い方を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司書が「総合百科事典ポプラディア」のひき方（つめ、はしら、索引を見る）を指導する。 ・各自が一つの事柄について調べ、引用し、出典を記録する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「総合百科事典ポプラディア」（ポプラ社）を一人1冊用意する。 ・ワークシートとはてなシートを用意する。
3次	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統工芸のよさを伝えるリーフレットを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自が、貸し出された資料を活用して調べる。 	パスファインダー、公式WEBサイトの紹介

【指導の実際】



写真④ 基本の模様	写真③ 物の種類	写真② 幾何学模様	写真① 木の目目と色
著作権保護のため 画像を隠しています。	著作権保護のため 画像を隠しています。	著作権保護のため 画像を隠しています。	著作権保護のため 画像を隠しています。
<p>箱根寄木細工 色や模様と種類</p> <p>箱根寄木細工は、神奈川県で作られている工芸品です。「箱根のさまざまな樹木が持つ自然の木目や色を生かして模様を作り出し装飾を施す事から生まれました。」ここでは箱根寄木細工のみりよくを紹介いたします。</p> <p>その一つは「色や模様」です。箱根寄木細工は、今は外国の木も使っていますが、「箱根山系」は国内でも樹木の種類の多さを誇る地域なので、その自然の木目や色を使って作っています。（写真①）その色々な種類の木材を使って細かい幾何学模様を作ります。幾何学模様とは円、直線、曲線などの図形によってできている模様のことです。（写真②）</p> <p>また、種類も箱根寄木細工のみりよくです。箱根寄木細工は、形、模様が違う小箱類がたくさんあります。小箱類だけでなく、コースター、コップ、キーホルダーもあり、箱根寄木細工で作れる物の種類はたくさんあります。（写真③）模様は、木材の切り方や色の組み合わせ方によって簡単なものから複雑なものまでさまざま。作ることが出来ます。基本の模様は、亀甲、青海波、鱗、扇の葉、やっこ、切りちがいが丹の六つです。（写真④）</p> <p>このように、箱根寄木細工は、とてもみりよくのある工芸品なのです。</p> <p>△参考▽ 岡本光晴「都道府県別伝統工芸大事典」株式会社あかね書房2023年 千葉均「調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく6」株式会社ポプラ社2020</p>			

児童が作成したリーフレット

【成果と課題】

- 「ポプラディア」を使って事柄を調べる学習に、意欲的に取り組んでいた。
- 引用や出典を書く作業は、難しい言葉もあり時間がかかったが、一生懸命取り組んでいた。6年生までに繰り返し実践し、身につけてほしい。
- 本を活用してリーフレットにまとめることができた。
- △ 引用する文を丸ごと自分の文章として使おうとするなど、引用の仕方に課題があった。活用の仕方の指導が必要である。

(3)6年生 国語 「『鳥獣戯画』を読む 日本文化を発信しよう」

【図書館活用や図書館部との連携により付けたい力】

- ・著作権を尊重し、調べた情報を適切に用いる力。
- ・調べたことを引用し、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力。

【指導計画】(全11時間)

	学習内容	図書館活用	図書館部との連携
1次	学習の見通しをもつ。		
2次	<ul style="list-style-type: none"> ・『鳥獣戯画』を読む」の絵と文を照らし合わせながら、筆者が『鳥獣戯画』をどう評価しているか読み取る。 ・著作権への理解を深める。 	日本文化についての本を探し、表現の工夫に着目して読む。	担任が、図書館部作成のポスターやパワーポイントを用いて、著作権について指導する。
3次	日本文化を紹介するパンフレットを作る。	調べたい日本文化について書かれた本から情報を集める。	ブックトラックに日本文化の本を集め、教室に貸し出す。

【指導の実際】



司書の項目立てで、児童が本を探しやすくなっている。



実際にパンフレットを書く時には、本の記述を再確認しながらまとめていた。



【成果と課題】

- 児童一人一人が「日本文化」の個人テーマを設け、調べ活動を行った。あらかじめ司書が該当する本を準備しておいた。児童は、さらに自分のテーマやその内容についての本を求め、司書と連携し様々な種類の本を読み深めていくことができた。
- △ 個人テーマに偏りが出た。そのため、読む本にも偏りがあり、一人1冊読むことが難しかった。
- 同じテーマ同士で一緒に本を読み、かかわりながら読書ができる良さもあった。
- 司書が細かく本を調べて項目立てや付箋などで印をつけ、児童に分かりやすく情報を与えた。

(4)特別支援学級 自立活動 「ええところ」

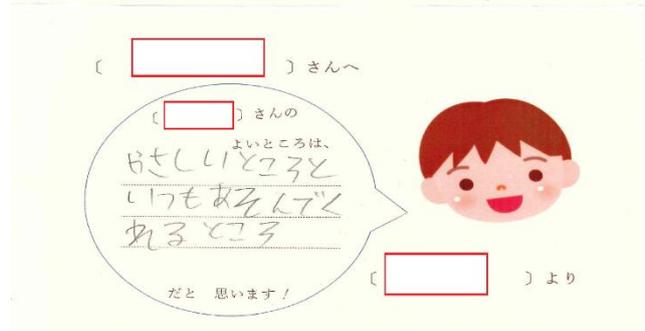
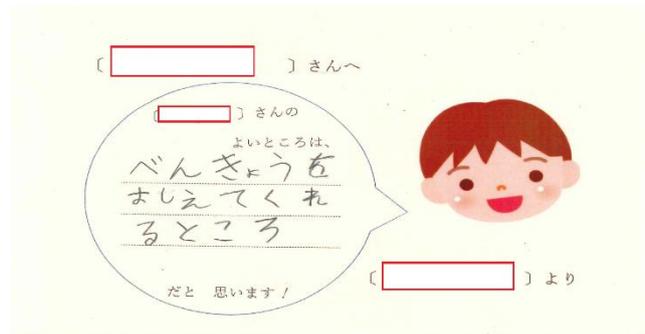
【図書館活用や図書館部との連携により付けた力】

他者理解について、絵本の読み聞かせをしてもらい、共通の人の「よいところ」を一緒に考えることを通して、友達のよいところを見付ける力。

【指導計画】(全2時間)

	学習内容	図書館活用	図書館部との連携
1次	・読み聞かせを聞いて、共通の人のよいところを出し合う。 ・学級の友だちに対して、よいところを見付けてカードに書く。	担任が、『ええところ』(作：くすのきしげのり，絵：ふるしょうようこ 学研)を、読み聞かせる。	・「自己肯定感が上がるような絵本」を司書が担任に紹介する。
2次	関連した、友情に関する絵本の読み聞かせを聞く。	自己肯定感が上がるような絵本を司書が選書し、担任が授業で定期的に読み聞かせる。	・『ええところ』(学研教育出版)『どんなかんじかなあ』(自由国民社)他

【指導の実際】



【成果と課題】

- 児童の実態をよく知る司書であったので、児童に合った読みやすい本を選定してもらうことができた。
- 担任と司書で打ち合わせを重ね、授業に合うような絵本をいくつか司書に選定してもらった。多くの本を紹介してもらえたので、その中から、よりイメージする授業に近づけるような本を選ぶことができた。

5 取組を振り返って

(1) 成果

- ・ 中学校区で連携し、推進事業の取組の重点を決めたことで、**系統立てた指導**につながった。
 - ➔特に、著作権・引用・出典について、各学年の国語の学習内容を系統立てて把握し、ポスターを制作したり職員研修を行ったりしたことで、学級担任へ周知することができた。
- ・ 司書教諭と各学年の担任、司書が繰り返し打合せをし、協働して活動を進めることで、授業の中で積極的に図書を活用することができた。
 - ➔ウェブサイトの情報に頼りがちだった児童も、**意欲的に図書を活用**していた。
- ・ 児童が出典カードを使って学習をすることで、**著作権を守ることを意識づける**ことができた。
- ・ 年間計画を作成したことで、どのような図書をどの単元で使うとよいのかが明確になった。
 - ➔次年度の指導にも生かしていきたい。

(2) 課題

- ・ 簡単に情報が手に入るため、教師も児童もウェブサイトを多用する傾向があった。
 - ➔**ウェブ情報**は大人向けに発信されていて、小学生には必要な情報を読み取るのが難しいこと、フェイク情報がますます増えていることなど、**注意点を伝えていく**必要がある。
 - ➔図書、新聞、ウェブサイトなど、**各メディアの特徴を知り、適切に利用していく指導**ができるとうい。
- ・ 児童が図書資料やウェブサイトを活用する際、著作権に気を付けながら、要約・引用し、自分の考えを深めていけるようになるまでには数年かかる。
 - ➔このような学習を、**系統立てて繰り返し行っていく**必要がある。
- ・ 出典カードを使った学習に、毎回取り組むのは大変。
 - ➔4年生以上の学年で行ったが、**年に1回程度、丁寧に学習する**ことが望ましい。
- ・ 活動を丁寧に進めていくことで成果があるが、各学級の状況や図書館部の勤務形態によって、打ち合わせの時間を確保することが難しかった。
 - ➔今年度行った内容や使った資料は、次年度も活用できるように確実に引継ぐ。
 - ➔推進事業は、無理のない範囲で進められるように、内容を精査する。